実務経験のある教員による授業科目の一覧（2025年度）

	教員名	実務経験	科目名	単位	「実務経験を当該科目の授業にどのような所で生かしてどのような教育を行うのか」（250字程度）	全学共通科目・ 学部等共通科目・専 門科目
1	池ノ上 真一	公民連携	環境科学論	2	「環境科学論」では、教員が従事した文化遺産マネジメントと地域課題解決に関する実務経験を生かし、人を取り巻く環境を科学的に捉える力と地域課題解決に関し現状分析能力を養う。そのために、身近な環境・地域の環境・地球の環境という三つの視点から、それぞれの環境を構成する要素と構成する仕組みの理解を促す。そして、それらが地域の文化遺産と深い関係があることを説明し、そのマネジメント事例をとおして実践的な地域課題解決の構造的な理解を目指すことで、多様な環境に関する現状分析能力を身につけることを期待する。	学部等共通科目
2	佐藤 千歳	報道関係	現代中国論A	2	「現代中国論A」は、圧倒的な多様性を内包しグローバルに展開する中華世界について、自分なりの視点を獲得することを目指す。そのうえで、現代中国を理解し、中華圏出身者により円滑なコミュニケーションが可能になるような知識の習得を目指している。中華世界の形成と発展は、現在の中国共産党政権の歴史観やイデオロギー、政治構造と密接な関係にある。担当教員の佐藤は、北海道新聞社（本社・札幌市）の国際部記者および北京支局長としてアジア・中国報道に従事した実務経験を有する。授業では、中国近代史が現代の中国政治や社会に与える影響や、日中関係に及ぼす影響について、担当教員の中国での取材経験を踏まえながら解説し、履修者が近現代の中華世界をより立体的に捉えられるような授業を展開している。	学部等共通科目
3	佐藤 千歳	報道関係	現代中国論B	2	「現代中国論B」は、現代中国と、中国と関わりの深い中華世界の社会や文化の特色について理解し、中国や台湾、東南アジアの社会と文化について、履修者の関心のあるテーマと関連させながらの理解を目指す授業である。さらに、中国現代史の知識をもとに、安定的な日中関係を築く妨げとなってきた要因を探り、東アジアの将来像について履修者が自分なりの展望を持てるよう指導している。担当教員の佐藤は、北海道新聞社（本社・札幌市）の国際部記者および北京支局長としてアジア・中国報道に従事し、領土主権、少数民族、民主化問題など、現代中国と日中関係の主要な課題を長期的に取材した実務経験を持つ。授業では、こうした取材経験と自身が執筆した論文・記事などを活用しながら、中国を含む中華世界を現代の政治・社会的文脈のなかに位置づけ、履修者の理解を促すような指導を実施している。	学部等共通科目
4	千葉 里美	コンサルタント (観光・まちづ くり)	観光ビジネス論	2	「観光ビジネス論」では、観光主要産業（運輸交通、旅行、宿泊）だけでなく、教員の実務経験より得た時代の変化や旅行者のニーズに寄り添って変化・進化・発展を果たした国内外の観光関連産業を取り上げ、サービス形態やビジネスモデルについて理解することを目指す。その際、対象とする観光ビジネスを取り巻く外部環境、旅行者志向、対象ビジネスについては、コンサルタント業で培った現状把握や分析方法を反転学習に取り入れ、学生がその事象について構造的に捉えられるよう力をつける授業を展開する。こうした授業により、未来へ向けた諸課題を踏まえた将来の観光ビジネスを切り拓く創造力を身につけることを期待する。	学部等共通科目
5	山田 勅之	旅行代理店	観光振興論Ⅰ	3	経済振興の一方策として観光がますます重要視されています。とりわけコロナ禍が終息し、国や地域間の往来が回復した今、国際観光は再び成長分野として、様々な施策が実施されています。本講義では、旅行業従事約20年の実践に裏打ちされた経験を活かしながら、インバウンドとアウトバウンド各々の振興に向けた動態について、国や自治体の取り組みだけではなく、旅行業や運輸業、宿泊業といった産業の取り組みも取り上げて、現状と課題、問題点を検討します。以上から、実務実践力を身につけて、グローバルに活躍できる人材育成を目指します。	学部等共通科目
6	山田 勅之	旅行代理店	観光関連法規	2	本講義は、観光関連法規のうち、「旅行業法」と「標準旅行業約款」を中心に、体系的な学習を進めることによって、消費者として観光関連の法律知識を増進させるとともに、国家資格である旅行業務取扱管理者試験への挑戦も視野に入れます。さらに文言の解釈や解説だけに留まらず、旅行業従事約20年の経験に裏打ちされた、現場での運用や対応の事例を織り交ぜながら、旅行業界を中心に、実社会で使える「知恵」を身につけます。以上から実践的な力を身につけます。	学部等共通科目
7	中西 良之	職業会計人	財務諸表論	2	「財務諸表論」は、企業の財務諸表制度を学習するとともに、企業を取り巻く経済事象を会計学の視点で考える授業である。企業会計の財政状態及び経営成績などの財務情報は財務諸表によって公表され、経済社会における重要な企業情報となっている。実務を通して多くの企業の財務諸表及び財務内容を分析した経験を活かして、企業の「貸借対照表」、「損益計算書」等の財務諸表や有価証券報告書等の財務情報をどのように読み取るのかを学習する。さらに、経済のグローバル化に伴う国際会計基準の導入状況を含めた最新の財務会計に触れていくものである。	学部等共通科目
	合計			15		